

# CLTの普及に向けた新たなロードマップ ～国土交通省住宅局の取組～

目標	取組事項	4年間の実績（累計） （令和2年10月時点）	今後の課題
CLTを用いた建築物の建築意欲を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>CLTを用いた建築物に取り組みやすい環境を整備</li> <li>先駆性の高いCLTを用いた建築物の周知による普及・啓発活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CLTを用いた先導的な設計・施工技術が導入される建築物等の木造化プロジェクト22件に対する支援を実施</li> <li>CLTアイデアコンテストの設計部門において大臣賞を授与</li> <li>CLT晴海プロジェクトにおける広報・普及活動を支援</li> <li>CLTを含む木造建築物のPR冊子を作成・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先導的な木造建築物のうち過半はCLTを活用。更なる需要拡大に向けて、先駆性の高い建築物の顕彰やモデル的建築物を支援</li> </ul>
CLTを用いた建築物の設計や施工ができる者を増やす	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計者・施工者が木造建築物について学べる環境を整備</li> <li>標準的な設計・施工に係る情報の共有</li> <li>設計業務の円滑化により新規事業者の参入を加速</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CLTを含む先導的な中大規模木造建築物に関する普及シンポジウムを実施。設計者や施工者など述べ556人が参加。</li> <li>CLTを用いた先導的な設計・施工技術が導入される建築物等の木造化プロジェクトを整理し、HPにおいて公表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで先導的な木造建築物について積極的に周知。木造に新たに取り組む設計者等の対応能力向上のための環境整備も必要</li> </ul>
CLTを使い易くする	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高層建築物におけるCLTの利用が容易になるよう建築部材等の開発を促進</li> <li>樹種に応じた基準強度やより幅広い層構成により合理的な設計を可能にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>林野庁において収集した追加の強度試験データを踏まえ、CLTの基準強度について、新たに使用できる層構成（3層3プライ、3層4プライ）を追加する告示改正（公布・施行：H30年3月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い層構成の基準強度の設定、CLTパネル工法の構造計算や仕様の規定の合理化を進める必要</li> </ul>
材料コストや建築コストを下げる H36年度までに年間50万㎡程度の生産体制を構築 CLT製品価格を半減（7～8万円/㎡）にし、施工コストを他工法並に	<ul style="list-style-type: none"> <li>需給動向を踏まえつつ全国的な生産体制の構築</li> <li>CLTの標準化による効率量産体制への移行</li> <li>まとまった需要を確保してコストを下げ、広く民間建築物等におけるCLTの需要を創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>林野庁において収集した追加の強度試験データを踏まえ、CLTの基準強度について、JASにおける等級区分・樹種群の区分に応じた、より高い強度を用いて構造計算を行うことができるよう告示改正（公布：H30年12月 施行：H31年3月）</li> </ul>	（このセクションは、右側の「今後の課題」欄と重複する内容を含みます）

CLTの需要の一層の拡大

